

**製品名:** ダイナミン I (リン酸化 Ser774) ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab04567

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	97kDa

## 抗原情報

遺伝子名	DNM1
別名	DNM1; DNM; Dynamins-1
遺伝子 ID	1759.0
SwissProt ID	Q05193
免疫原	抗血清は、Ser774 のリン酸化部位周辺のヒトダイナミン 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 740-789

## 背景

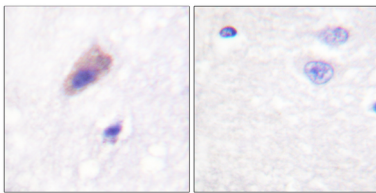
ダイナミン 1 (DNM1) ホモサピエンス この遺伝子は、GTP 結合タンパク質のダイナミンサブファミリーに属するタンパク質をコー

ドする。コードされているタンパク質は、膜を管状に形成および切断するのに用いられる独自の機械化学的性質を有し、クラスリンを介したエンドサイトーシスやその他の小胞輸送過程に関与する。アクチンやその他の細胞骨格タンパク質は、コードされているタンパク質の結合パートナーとして機能し、自己組織化によって GTPase 活性を刺激する。この遺伝子の 3'領域は、ゲノム上の他の部位、特に Y 染色体と 15 染色体に 60 以上の高度に保存されたコピーが存在する。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されている。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]触媒活性:  $GTP + H(2)O = GDP + \text{リン酸}$ 機能: 微小管関連産生タンパク質。微小管束の形成に関与し、GTP に結合して加水分解することができる。おそらく小胞輸送過程、特にエンドサイトーシスに関与していると思われる。類似性: ダイナミンファミリーに属する。類似性: GED ドメインを 1 つ含む。類似性: PH ドメインを 1 つ含む。細胞内局在: 微小管関連。サブユニット: CAV1 および SH3GLB1 と相互作用する。SH3GL1、SH3GL2、および SH3GL3 に結合する。

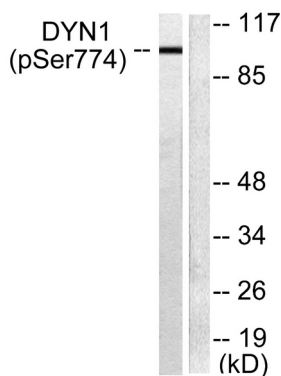
## 研究分野

エンドサイトーシス;Fc ガンマ R を介した貪食;

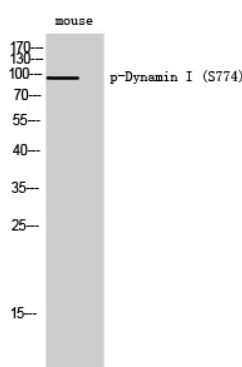
## 画像データ



ダイナミン-1 (リン酸化 Ser774) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



マウス脳ライセートの Dynamin-1 (リン酸化 Ser774) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化ダイナミン I (S774) ポリクローナル抗体を用いたマウス細胞のウェスタンブロット解析